令和7年度第1回宮崎県読書活動推進委員会 議事録

令和7年5月30日(金)

県立図書館

協議題「宮崎県生涯読書活動推進計画の具体的取組についての検証」

グループ	記録
家庭	<div data-bbox="387 488 1401 555" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> IV 具体的な取組等 家庭における読書活動の推進 の検証 </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ そもそも家庭とは、ということや、管理指標の目標値が下方修正された経緯は何か、実績値がなかなか伸びていないことが話題になった。 ○ そもそもこの管理指標の数値は家庭の読書を表すものになっているのか。例えば小学校では読み声を行っているはずだが、それは学習だから含めていないのか。 ○ 家に本棚はあるのか、親子で図書館を利用しているのか、図書館の利用カードを持っているのか、どれくらいの頻度で図書館に行くのか、という指標の方が具体的な家庭の読書の姿に迫ることができるのではないか。 ○ リーフレットはデータがあるので、今後も活用していくことができる。しかし、図書館に來たり、読み聞かせに参加した人にリーフレットを直接配布したりするのであれば、紙媒体のものも残す必要がある。また、数年後に新たなものもつくっていく必要がある。 ○ ブックスタートについて、ほとんどの市町村で実施されているが、各自治体で予算が異なるため、ブックスタートの内容には差が出ているのではないか。また、統計資料上では未実施となっても、ブックスタート「的」な活動で子どもに本を渡している自治体もあるのではないか。 ○ 宮崎市でも、乳幼児検診の場で渡す方式ではあるが、看護師の負担になっていたり、または渡し方（読み聞かせをしてから渡す、何もせず渡すなど）が異なっていたりと課題も見られる。ブックスタートの本来の良さを理解してもらうため、講座を開く、その講座をWebで公開し、いつでも振り返りや確認ができるようにすると、という取組も考えられる。 ○ 読み聞かせのワンポイント、言葉遊びの楽しさ、選書の仕方などを啓発するショート動画を制作し、二次元コードを読み取ったら見ることができる、という取組も考えられる。

IV 具体的な取組等 2 学校等における読書活動の推進 の検証

学校

- 管理指標の現状について、特に中学生で読書が好きな生徒の割合が減少傾向にあるのは、司書の配置が小学校や高校よりも少ない、最近の中学校のカリキュラムが非常に変化しており中学生の自由時間が少ないという現実があり、それが原因ではないかと考える。
- 学校によっては、昼休みに本を読ませる努力をしているところもある。管理指標の一斉読書という聞き方が良くないのではないか。
- 管理指標には、幼稚園や保育園の活動も加えてはどうか。特に幼稚園、保育園は読み聞かせに非常に力を入れており、ほぼ100%実施している。読み聞かせは将来読書好きを育てる素晴らしい活動であるため、管理指標の「読書」と捉えて入れてもよいのでは。
- (1)の項目「幼稚園と保育園における読書活動の推進」は、このまま継続すると良い。
- (2)の項目「学校や地域の特色をかした読書活動の推進」の「情報を収集し、紹介」は、どこで行っているのかがもっと分かりやすくなると良いのでは。また、図書館を活用した学習活動事例のデータベースがあると、もっと図書館を活用した授業がしやすくなるのではないか。
- (3)の項目「読書環境の整備・充実」については、学校司書の配置について、どんな働きかけをしているのかを知りたい。むしろ学校司書はどんどん減らされているのではないか。また、「やまびこ文庫」等の活用に、「ひなた電子図書館」を加えてもよいと思う。
- (4)の項目以降は、次回検証する。

IV 具体的な取組等 3 地域・職場における読書活動の推進 の検証

地域・職場

- そもそも、「地域」の幅が広すぎる。どう検証するのか。
- 県だけで検証は困難である。そのためには、関係機関との連携が重要であるが、これまでの連携は、県から一方的に何か提案されるという認識である。その連携の在り方を見直すべきではないか。
- 連携を行って取組を進めるその先には、本来届けたい人達がいる。しかし、なかなか届けられない現状がある。そこに届けるためには、地域や現場の人が軌道にのるところを県が支援する、という形の連携が望ましいのではないか。

<p>地域・職場</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ そもそも、このような計画の成果は即効性を求めず、10年後に成果が表れる、という中長期的な視点で進めなければならない。また、本計画はすべての県民を対象にしているが、読書習慣のない大人に働きかけを行ってもあまり成果は得られないと考える。それよりも、子どもたちの読書習慣形成に焦点をあてた取組を推進していき、その子たちが大人になっても読書に親しむ姿を目指していく方がよいのではないか。 ○ (1)の項目に「読書団体との連携」とあるが、連携するには、どの団体がいるのかきちんと把握する必要があるのではないか。 ○ (2)の項目「マイクロライブラリー（ひなたライブラリー）」について、現状は「置くだけで満足、置かれるだけで満足」ととどまっている。これがどう活用されるのかが本来目指すべきところである。例えば、ひなたライブラリーを活用した後に楽しみがあるしかけや要素を加えること、インフルエンサーを活用してライブラリーの存在を広く発信することが考えられる。かつ、リストになく、読書と直接つながらないスーパーマーケットやショッピングモールに置くことにより、さらにつながりが広がっていくのではないか。
<p>読書バリアフリー</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">IV 具体的な取組等 4 視覚障がい者等の読書環境の整備 の検証</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 国の視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する基本的な計画（第二期）では、指標に「公立図書館等におけるアクセシブルな書籍等の冊数」や「サピエ図書館登録館数」がある。今後それらも把握する必要がある。 ○ 県のHPで各図書館（室）の整備状況が公表されているといい。支援学校の生徒も地元に戻った際に利用できるか確認できる。 ○ 県立図書館はバス停から点字ブロックがあるものの、一部途切れており、全盲の人は自力ではたどりつけない。（確認漏れかもしれないが）各図書館は当事者の意見を聞いているのか。他の自治体では、連絡するとバス停まで職員が迎えにくる仕組みがある。 ○ 県の研修のほかに伊藤忠財団や日本図書館協会、国立国会図書館でオンライン研修を実施している。まだまだ知られていないので、県の研修の周知だけでなく、これらの研修の周知を図ってほしい。 ○ 読書バリアフリーに係る研修は県でも実施しているが、実際の公共図書館の障がい者サービスは充実されていないように感じる。なぜサービスを行わないのか、というようなことを各自治体に聞き、検証する必要があるのではないか。

読書バリアフリー

- デイジープレーヤーや音声操作できるパソコン、障がいに対応した各種アプリがある。無料のものも数多くある。また、今パソコンは標準でアクセシビリティ機能を備えている。
- 点字は、点字ディスプレイやブレイルメモなど、昔と異なり、軽量の機器で点字の作成やデータの取り込み、再生などができる。
- ただ、多くの障がい者が機器の操作法が分からず、せっかくあるアプリや機能を使えない。勉強会や YouTube の配信を行っているが、地元の図書館で文字拡大や音声再生の無料アプリ等の操作方法を案内できるといい。
- 音声読書器（文章を写すと自動的に読み上げる。20 数万円）は、非常に便利で、当事者には補助金がでるが、満額ではなく、手出しが何万か必要なため、なかなか手が出ない。図書館にあると喜ばれると思う。
- 9月28日に福祉機器展を開催する。そのときに最新の機器を試して情報収集するとよい。また、公共図書館で働く視覚障がい者の会のサイトには色々情報がある。
- 現在は紙媒体から点字やデイジーを作成する必要が無くなり、ドキュメントスキャナー（5万円～）があれば、PDFデータを OCR 化により得られたテキストデータをもとに、点字やデイジーを作成することができる。図書館同士ならばテキストデータのやりとりが今認められているので、新刊のデイジー図書の作成など、複数館で分担して作成することで、より早く当事者に提供できる時代となった。紙時代と比べ、短期間での人材育成が可能と考える。千葉県立図書館のように図書館で実施してほしい。
- 前回の改訂のときにも要望したが、読書バリアフリーを優しく説明するパンフレットかリーフレットを作成し、配布してほしい。読書バリアフリーの話をするとき視覚障害者「等」の「等」の意味を今もよく聞かれる。滋賀県のものがいい。
- 周知するための HP をつくってほしい。（横浜市読書バリアフリーサイトがいい）
- 本年度県立図書館 HP をリニューアルする予定があり、可能な配慮は行いたい。今後意見をいただきたい。